

特47

647

特47-647



1200500896352

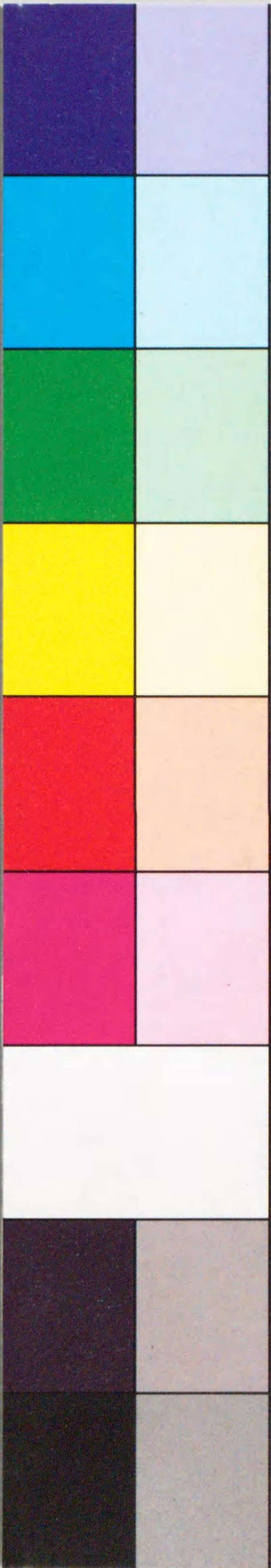
幼年教育

生徒乃心得

国立国会図書館

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



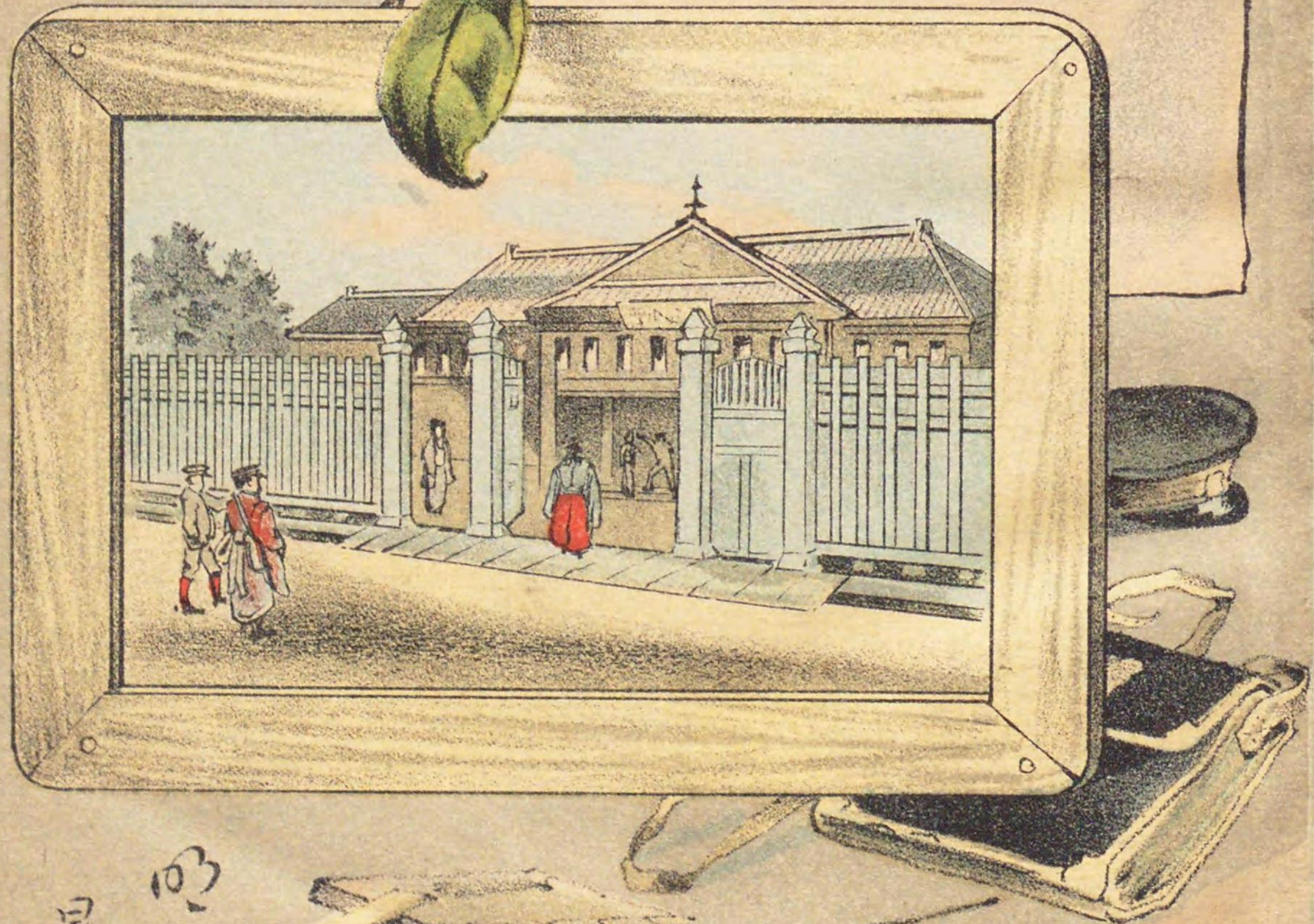
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

29

幼年
菱
育

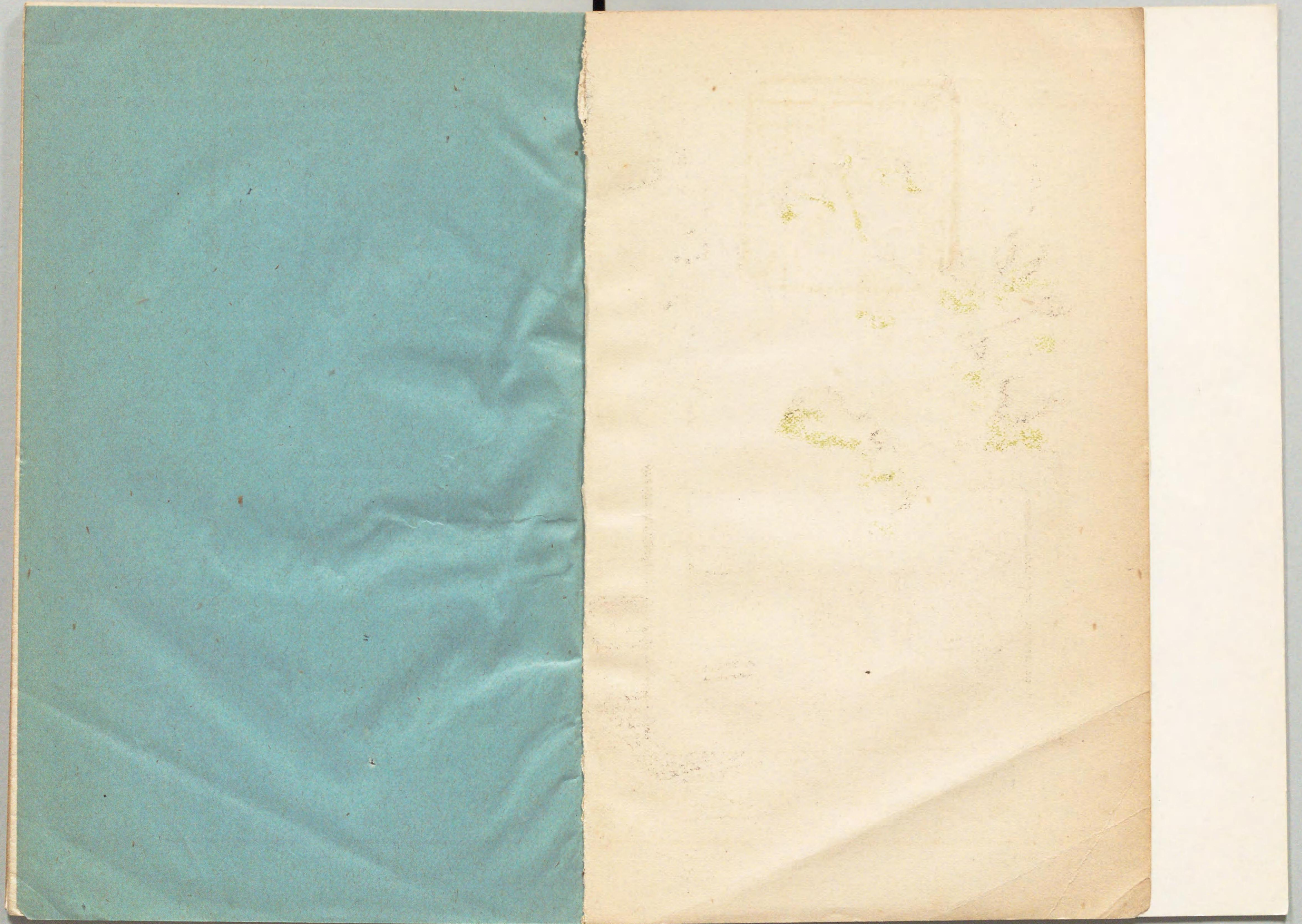
165
87

生
徒
乃
心
得



昇
行
明
菱

大
坂



生徒の心得緒言

およる此編は學校生徒諸君が課業を習練する其餘に於て特に心得ざるべからざるものを編述したるに在り之を言ひ換れば教師が生徒に授業せらるゝ外にして生徒自身も必らずしも爲さざるべからざるの事共即ち是なり詳しく言へば其の事共は概ね皆な家庭教育に属するものなり我邦古へより家庭教育を以て一の重きに置けり然りと雖も家庭教育は古來一定の方法なし是に由て其の教ふる所區々にして規矩正しからず随つて其の弊も亦た無きにあらず今や文運日進の時に方り家庭教育の教育は更に層一層の重きを感じるに至れり看よ々々多くの學校生徒を看よ家庭教育の完全なる本に育ちたる者は學校に於て教師の世話をやめること尠なくして其の授業も容易なりと雖も之に反して家に在る時の化育あしき生徒は實に教師の厄介物となり物覺は悪く行儀は悪く迪ふ末の見透し附けざる者さへありと云へり是れ頗る遺憾千万なる至りならずや此編ハ即ち其の家庭教育の補ひにして以て彼れが如きの遺憾ならしめんと欲するの老婆心より出でたるに外ならざるなり

明治廿七年六月

○緒言

編者識



目録

- 發端……………一
- 朝に於けるの行狀……………二
- 學校に行く途中の心得……………四
- 學校に於ける心得……………六
- 修業中に係る特別の心得……………七
- 辛抱の強きは其身の徳たるを心得ざるべからず……………八
- 運動の心得……………九
- 輕躁を慎む可し……………十
- 家に歸りて後の心得……………十一
- 常に我が家に在る時の心得……………十二
- 兄弟姉妹に對する心得……………十四

目録終

- 兄弟相結ぶの力は鉄石の如し……………十六
- 親戚に於けるの心得……………十九
- 朋友に對するの心得……………二十
- 行狀の心得……………廿二
- 禮法の心得……………廿四
- 前途の心得……………廿七

幼年生徒の心得

○發端

現今の社會に於ては學校生徒たる者は公衆より厚く待遇せられつゝあるものにて、頗る名譽の地位に立つるものなり之に反して學校に上らざる子弟は殆んど社會より擯せられんとしつゝあるなり何故に彼れと是れとは其地位の相異なる此の如く甚だしきや是れ他なし學校生徒は未來の眞國民にして日本帝國の爲めに必らずや幾多の功績を奏すべき望みありと雖も彼の學校に上らざる子弟の如きは壯も其望みなさのみならず或は國家を傷害する鼠輩たらんも未だ知るべからざればなり學校生徒の責任重大なり其公衆より厚く待遇せらるゝ素より其所なりとす然らば則ち學校生徒たる者は只各自隨意に學問課業を研究し勉強し習練するを以て足れりとのみす可けんや其學問課業を研究勉強習練する側に於て必らず其學校生徒たるに耻ぢざるの心懸けなかるべからず例へば學問は深く之を修むると雖も其品行に於て見る所取る所なくんば未だ以て其人品に價値ありとすべからず啻に其價値なきのみならず世人之を尊敬せず隨て亦た其學問を利

横山順編

○幼年教育生徒の心得

用する道なき之故に學校生徒たる者は深く其學問を修むるに精勵すると同時に又一の心懸なかるべからずとする所以なり一の心懸とは何ぞ他なし生徒の心得即ち是れにして本篇其要旨を編述する所に係る聖人曰く學問の道他なし其放心を治むるのみと學校生徒即ち未來の良國民にして放心ならんか何を以て平凡ならざるを得んや學問ありと雖もそは虚具のみ取るに足らざるなり學校生徒に取る所のものは其學問の宜しく他の模範たるべきにあり生徒諸君諸君等實に未來の良國民たらんと欲せば先づ其言動に注意せられよ而して諸君等が注意すべきの諸點を請ふ之を左に視て可なり

○朝に於けるの行狀

先づ朝之疾く起きよ疾く起るにも父母に世話をやかせぬやう自ら目を覺し起きては直ちに平衣を着寢衣をたゝみ下婢あれば夜具之之に取片附けしむるも可なり然らざる者は成るべく父母の勞を除く爲め夜具を毛疊むべきなり而も尙は未だ自ら爲し得られざる時は其儘にして夫より顔を洗ふべし次に髪を梳り畢つて父母に對ひ朝禮をなせよかし但し朝禮をなすの式は先づ父の前に跪き兩手を並べて疊につき叮嚀に挨拶するとは是なり挨拶の仕方は銘々隨意に任すと雖も一

れ父さんお早う御座います」と大抵は言ふものなり次に母に對ひても同様なるは勿論夫より順次に長上の人ある毎に挨拶せざるべからず此の如きは其身病氣にあらざる限りは毎朝飲さぬやう心得ねばならぬさて朝禮畢りて後朝飯の膳既に出來たれば之に向ひ食に就くべし此前後に於て若し兩親より言葉懸けらるゝ事あらばそなたに向ひて跪き柔和なる顔相して耳を傾け之を聞き言葉の切目々にハイ、と應答し其言畢るを待ちて宜しく徐かに答ふべし膳に向ひてより又一の心得べき事あり開は兩親の箸を取らざる先きに早く既に食事をはじむべからず必らず父母の



○幼年教育生徒の心得

始むるを待つこと是なり若し父母より先さへ始めよとの允可を得ば之に相當するの挨拶をなし而して以て食し始むべし食膳に在る物に就て我が嗜否を言ふ勿れ多少を言ふ勿れ食事中は濫りに話をする勿れ食物はよく噛み碎くべし箸の音は餘り強くさすべからず食事は長く掛るべからず畢れば直ぐに膳を放れよ恁くて早々學校へ行くの用意をなすべし諸君は必らず學校へ行くに勇むべし勇まざるべからず併し乍ら遽てる勿れ先づ其日に教授を受くべき課業に入用の學具を遺漏なく取揃へ之を鞆ちり袱なりへ裹み而して時間と猶ほ早さや否やと視て若し尙ほ早き時は宜しく復習すべし暫くも手を空しうし置くべからず但し時間の見計ひを誤りて學校に行くこと遅るゝ勿れ這は最も注意すべき事なり將又家を出る時は必らず父母に挨拶するを忘るべからず「お父さんね母さん行て参ります」即ち是なり

○學校に行く途中の心得

父母の前を去りて後ち學校に行く途中に於て諸君は亦た必らず一の嚴重なる心得を有たざるべからざるものあり折ふし平生の遊び友達に出逢ふことなしとも計られず然れども今は遊ぶの時に非ざれば僅に挨拶するのみにて別れざるべからず

らず或は又た途に人集りするものありて面白く笑ひ興する事ありと雖も吾も共に止まりて見るが如き事はなすべからず之を要するに我が家を出でゝよりは一直線に學校へ行く外には一切心も目も移すべからざるなり但し往來にて車馬に出逢ふときは吾れより早く之を避けざるべからず怪我をすれば吾れのみ難儀にわらず父母をして心配せしむるの煩ひわれは深く注意せざるべからず若し又た己れの外に幼者を打ち連れ行けるときは爲めに幾分の心添をなしやるべし別して車馬などに出逢ふときは能く扶助して其難に罹らぬやう世話しやるを忘るべからず



○學校に於ける心得

諸君すでに學校に至らば先づ教師に對ひて叮嚀に禮を盡し次に同輩生徒に向ひて立禮を施すべし夫より始業の鐘報を聞くに及びては直ちに教室に入るは勿論なれども同輩生徒を押除けなせして疾走すること勿れ既に教室に入りては再び教師に立禮すべし而して後ち徐かに我が席に着き教師の指揮を待て課業に従ふべし尤も課業に従へるの間は謹み慎みて教師の授業を受け一意専心に勉強精勵するの外は毫も仇眼を觸るべからず然らざれば授る所の業決して身に染みざるなり

さて課業に就て質問起らば靜かに手を揚げて問ふべし其疑ひを隣席の生徒に向て私に質すが如きは不可なり左れば徒らに話をなす如き不宜しからざる事と心得べし已にして課業畢らば先づ教師に一禮して後ち我が物を取片附け徐かに其席を退くべし退く時の心得も亦九入る時と變るべからず

右の外學校には夫々規則の設けあれば言ふ迄もなく諸君は之を遵守するの義務あり而して其行狀の點に於ては毫も粗暴に涉るなく力めて以て教師に褒めらるゝやう心懸けざるべからず

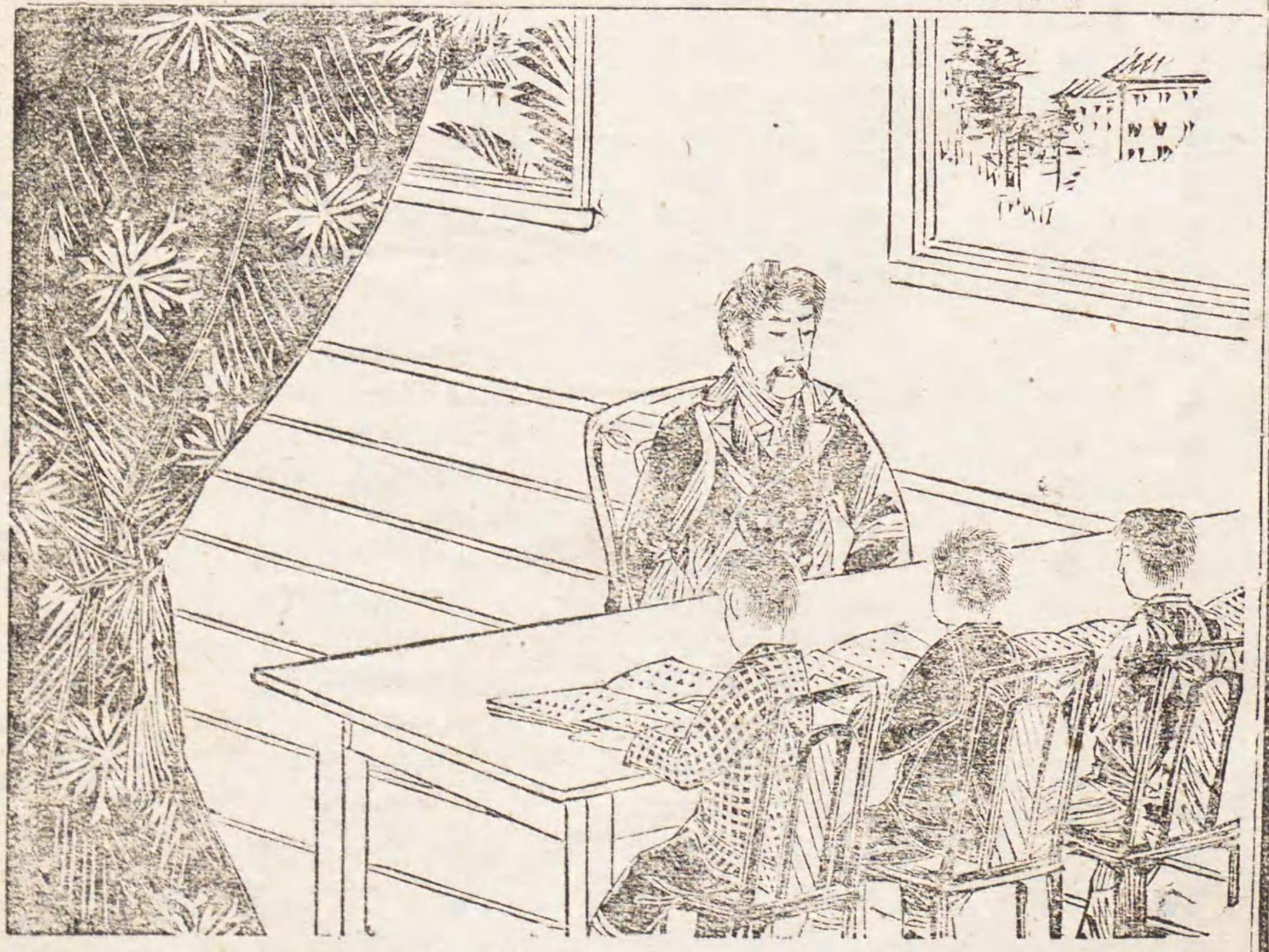
○脩業中に係る特別の心得

前項に學校に於ける心得方を豫め述べたれども修業中に係る事柄を悉さず故に之を茲に述べしよ

脩業に取掛るときは其體を文臺に正しく向けべし或は首を傾け乃至前に倚り菴るが如きはすべて不可とす墨を妄りに方々へ塗けぬやう墨を摺るにも点ねぬやう別して墨の爲めに衣物を汚さぬやう能く注意せざるべからず課業畢る毎に我が所有品を取亂さぬやう仕舞ふ事を忘るべからず

脩業中便所に行んとする時は教師に告げて其許を受け靜かに其席を起ちて行くべし使用をばれば必らず手を洗ふべし

○幼年教育生徒の心得



し其手を手拭にて拭くは勿論なれども畧して袖にて拭くべからず
食事のとき辨當を開くは必らず食臺に於てすべし尤も辨當をつかふときは飯粒
など落さぬやう注意するは勿論食事中は一切口を利くべからず而して成るべ
き的是はやく食事を畢るを可とす
其日の課業畢りて歸るときは假令ひ衆生徒と共に途を行くにせよ學術外に係る
雑談をなすべからず其他はすべて行く時の心得にかなじ

○辛抱の強きは其身の徳たるを心得ざるべからず

辛抱は讀本などに能く有る所の忍耐是なり忍耐なくんば勉強成らず勉強は實に
忍耐に頼て成るものなり諸君が教師より授けらるゝ諸課業の中には難もあり易
もあるべし而して其難を避け其易に就くのみにては大試験の場合に於て及第す
ること能はず故に難易共に勉強せざるべからず而も忍耐の力つよき時之如何な
る難と雖も成らざる事なし昔し伊太利と云ふ國にコルレジョーと云へる畫工あ
りき古人の名畫を見て逆も及ばぬ事と諦め一旦は筆硯を焼んとしたりしが後ち
自ら憤發して「我も亦た畫人なり豈に古人に及ばぬ理あらんや」と云ひ夫より辛抱
づよく勉強したれば其畫學大いに進み遂には古人の上越したりと云ふ

○運動の心得

運動は元來其生を衛るに欲くべからざ
るの事なれば十分に心を慰むるに足る
丈の遊びを爲すは可なれども左ればと
て濫りに立ち騒ぎ悪戯技などなすべか
らず彼の樹登りの如きは運動にあらず
して悪戯技なり學校に在りて遊歩の時
間に運動するとき教師が許す限りの技
は如何なる事をもなすべし然る代り危
き場所たへば水邊に至り岸に立ちて
石を投げ或は其周圍を走りめぐるなど
若し誤つて怪我するときは運動にも何
にもならず却て衛生を害する譯なれば
虚に乗ずるの運動は深く注意すべし但
し運動と悪戯と同一に非ざるを辨へざ



○幼年教育生徒の心得

るべからず

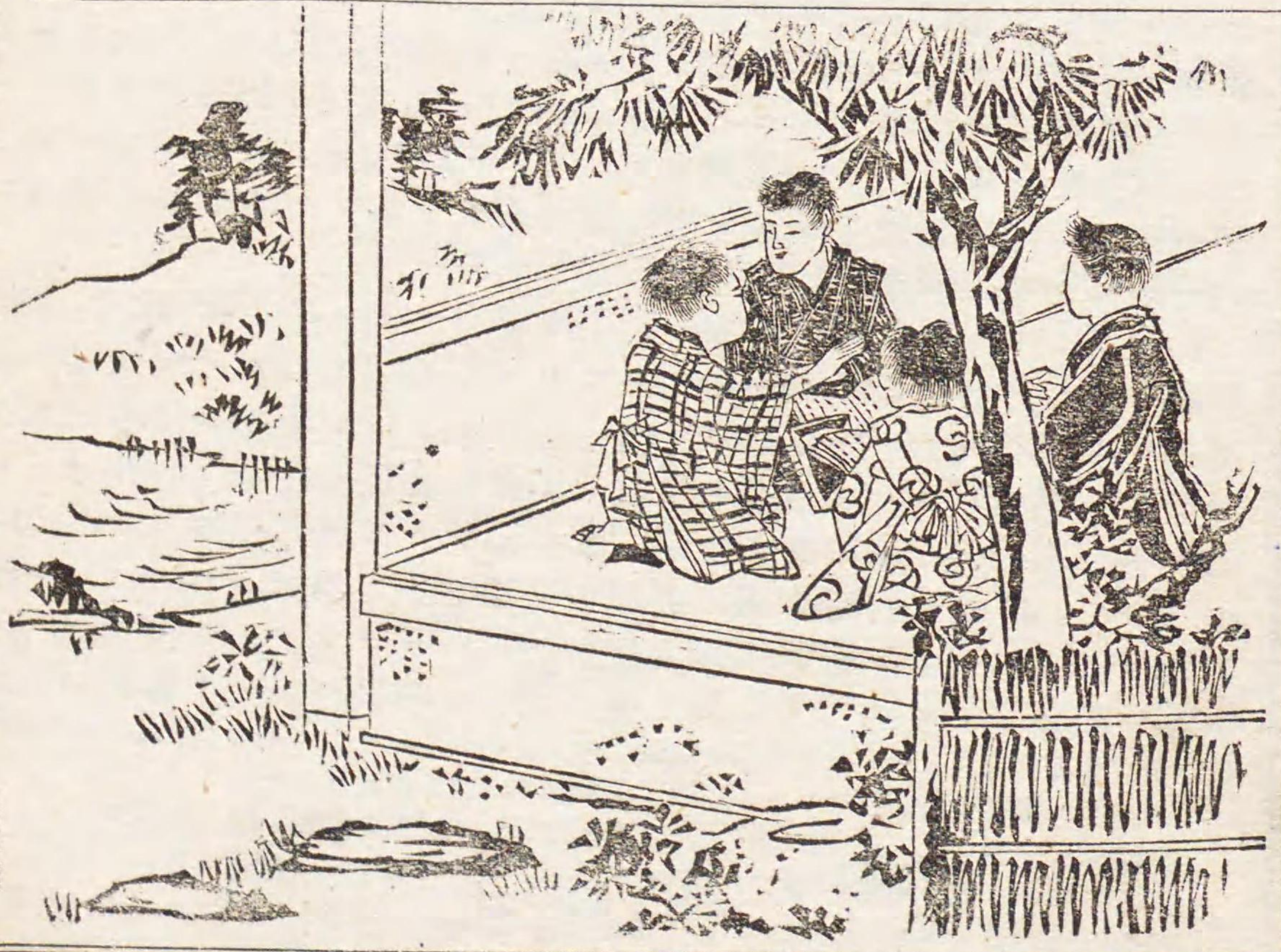
○軽躁を慎む可し

學校生徒たる者は最も軽躁を慎まざるべからず凡そ世の人を見るに共舉動の輕躁なる者にして能く事業を成したるものは甚だ稀なり失敗を招くの本は必らずしも輕躁ならざるはなし此事生徒の中よりして深く注意せずんば成長の後亦た過ちあるを免かれず管それ加之ならず未だ生徒たるの時に於ても輕躁なる者と兎角過ちを生じ易きものなり昔し生徒あり其名を荒太郎と呼べるが水泳を學ばんとて教師に就き未だ教師の水に入るを許さるに岸邊は水淺ければ慮りなしとて獨り川に入りぬ然るに荒太郎は其名の如く荒武者の男なりければ前後の考へもなく追々深き方に身をやりけり此時未だ教師は居らず只同じ位の年輩三人と水に漫り居りしなるが他の者は荒太郎に向ひそのやうに深い方へ行くは危険いゝと止めたれど荒太郎は少しも其言を用ゐず益す深き方に赴くうち川底急に凹所あり荒太郎は其所にすべり落ち固より水泳を知らざれば泳ぎて出ることを得ず其まゝゴックと水に溺れて死したりけり是れ荒太郎が其輕躁を慎まず人の止めるをも聞かずして茲に至りしなれば取りも直さず自ら招きたる禍

なり返すくも生徒諸君これに鑑みて輕躁を慎めよや

○家に歸りて後の心得

諸君之學校より歸宅すれば直ちに遊ばんとするか若し然なりと答ふるならば開之最も不都合なり假令ひ殆んど終日學校に在りて勉強せられたるにもせよ倦厭きたるにもせよ今一ツ辛抱して其日學校にありて學び得たる所を先づ忘れぬやう凡そ二三回は復習すべし此復習を爲さる間は假令ひ遊び友達が呼びに来ればとて行くべからずさて復習了り戸外に遊びに出でんとするときは両親に向ひて少し遊んで参りますと云ひ聞えて行くべし若し又た少

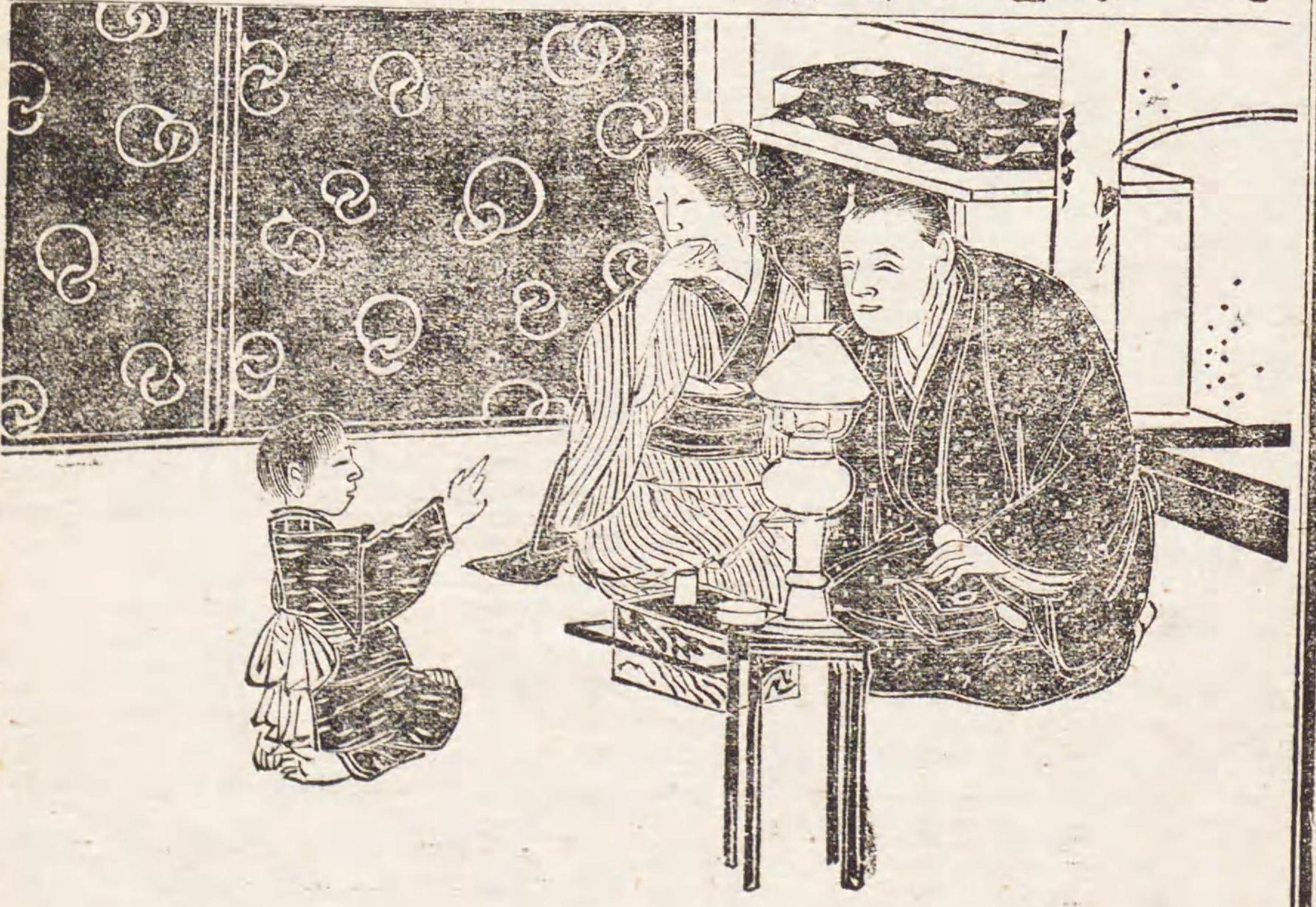


しく遠き所へ遊びに行くときは必ず其の行く先を告げ行くべし此場合に於て父母之を許さいるときは決して行くべからず尤も遠方へは成る丈け遊びに行かぬやう心懸くること肝要なり父母は諸君の遠方へ遊びに行くときは歸るまで何となく氣遣ひつゝあるものなればなり

○常に我が家に在る時の心得

さて又た諸君が學校に在るの外遊びにも行かざるの外常に我が家に在るときは手を空しくして居らず必ず何事かを爲す事を心懸くべし然れども諸君は未だ幼年なり家事に就て手出しすべき身にわらず左れば大方之爲す事なかるべし故に此場合に於ては學問を爲すに若かず讀書なり習字なり算術なり裁縫あり其他何なり歎なり凡そ學校に於て授けらるゝ所の課業を復習するに若かざるなり諸君はまた今一ツ大切なる心得べき事あり我が最愛なる父母の若しも病氣に罹れるときは必ず其病床に待し或は藥を備め身の内を撫でさすり或は時々容体を伺ふ等すべて父母が病を慰むるに勤めざるべからず父母の病ひ少しく輕快に向へる時などはいよゝゝ其心を慰めんと兼て學校にて教師に聞ける面白き話を能く覺え居りて爲すべきなり其外も何くれとなく父母が病を慰むるに足ると思へる

事は人に言はるゝ迄もかく之をなすこそ孝子の本分なれ
れよそ子たる者之誰彼の差別なく皆な父母の恩を受くること大いなりとす左れば子として其恩を忘れては相濟まぬ事なり忘れて相濟まぬ第一の心懸けは所謂孝道を盡すに在ること勿論なれば父母の命する所は何事に限らず能く之に順とざるべからず父母に對して口をたへするは第一の親不孝なり呼ばるゝ時は軽く返じ、呀附らるゝ事あれば氣輕に立ちて之を爲せよ
其他平生に在りて父母の嫌ふ事を爲し又之語るなどは極めて慎むべし或は手足を汚し鼻汁を垂し父母をして穢からしむること勿れ惣じて父母の感情を悪くする行ひ話し等は一切爲さるやう



○幼年教育生徒の心得

注意すべし子として父母の感情を傷ねるは實に不都合の至なり
 父母に命けられて若し買物に出る事あらんか此場合に於ては父母より渡された
 る金銭を失はぬやう大切に收め持ち出先にて如何なる棒事ありと決して餘所
 目を觸らず急ぎ用を達して立ち歸るべし買物に費したる残りの金銭は一厘たり
 とも誤まらぬやう能く勘定を明らかにして屹と父母に返済すべし
 若し又た父母より命けられし用事の數多くして記憶し難しと思へる時は之を一
 々書附になし以て其用を遺漏なく達すべきなり父母の用事を達す事は最も迅速
 を貴ぶ愚圖くして閑取る如きは謂れなき粗相と思はざるべからず
 諸君もし止を得ざるの欲しき物あらんか然る時は之を父母に請ふて買ふてもら
 ふは可なれども強て以て父母に迫るが如き事は爲すべからず尤も止を得ざるに
 出るの意を示さざるべからざるなり之を要するに物て強請がましき事は父母に
 向つて言ふべからずとす成るべくと父母より與へらるゝを待つに若かずと心得
 居ること肝要なり

○兄弟姉妹に對する心得

父母に對する諸君の心得方は既に述べたり次には曾父母若くは叔伯父母に對す

る心得なるが是は諸君より見る時は詰り父母に於けるも同様なれば自ら宜しく斟酌して事ふべし之が區別の立方は外にあるべき要はなし只ひとり兄弟姉妹に對するに至りては自から其區別すべき心得あり請ふ之を左に見よ
 四海のうち皆な同胞と云へど諸君の爲めの兄弟姉妹こそ最も同胞の契り淺からぬものなれ眞に血筋を分けたる同胞と云へば兄弟姉妹より外になし左れば此兄弟姉妹とは最も和らぎ最も親まざるべからず兄弟姉妹と互に何事をも助け合ふを以て一の心懸けと爲さるべからず而して兄たり姉たる者は能く弟たり妹たる者を愛すべし苟にも之を侮



○幼年教育生徒の心得

り之を苦める等の事を爲すべからず又た弟たり妹たる身は常に能く兄たり姉た
 る者の言ふ事を聞き少しも之に悖ふ事なく睦び親むの心懸け肝要なり兄弟は則
 ち長上なれば之を待つ父母の次に於ける尊敬を盡すべきこと勿論なり席に就く
 にも途を行くにも必らず之に後るべし先んずべからず斯の如くにして兄弟姉妹
 和睦を爲すとき互に力になり合ふこと宏大無邊なり世俗に兄弟は他人の始まりな
 り水臭と言ひ草を爲す者あれど是れ甚だ謂れなき事なり假令ひ其子孫は如何あるに
 もせよ兄弟姉妹は現に血を分けたる同胞なれば何くまで親み合ふが人の道と云ふ
 ものなり尤も兄弟姉妹は其親睦を長く失はざるやう心懸けんには一ツ家に在りと
 雖も互に其所有品を侵さるやう注意すべし如何に兄弟姉妹なればとて之を濫
 りにするが如きと甚だ宜しからざるのみならず遂に其和睦を傷むの嫌ひあれば
 勤めてこゝに注意すべし左すれば兄弟喧嘩など云ふ事は滅多に起るものにあら
 ず兄弟姉妹と互に其の過ちを注告し合ふべし之を直ちに父母へ告ぐるは宜しか
 らず兄弟姉妹の間に於ける情誼此の如くにして始めて親睦なりと云ふべし
 ○兄弟相結ぶの力は鉄石の如し
 れよそ世の中に兄弟より力になり合ふものはあらじ如何に他人が信切なればと

て兄弟が眞味の力には決して及ぶもの
 にはあらざるなり昔し下總の國に三崎
 七之助十次郎と云へる兄弟ありけり互
 に和らぎ親むこと古への曾我兄弟も及
 ばぬ程なりき七之助十次郎も成人し
 て父母なき後は一ツ家に住居して兄も
 弟も妻を持てり而して兄も弟夫婦を大
 いに愛し掌の玉の如くに扱ひければ弟
 夫婦も兄夫婦を待つこと父母に於ける
 が如く尊敬し一家浪風立たず暮すこと
 十年一日の如し爰に近隣の某夫婦と云
 へる者極めて不評なりけるが三崎兄弟
 夫婦の類稀なる睦じさを猜み兎角して
 兄弟の間を割んと双方に告ぐるに様々
 の悪口を以てしたり左すれども兄弟夫



婦は少も其言を信せず宜き程にわしらひ居たりしが彼の悪夫婦が讒言の尙は益
 す甚だしきに至り女ごゝろの淺ましきには七之助兄弟の妻同士さては左様かと
 思ふに至り始めに引變へて後には悪夫婦の言ふ事を真なりと信じ妻同士の間は
 此に於て破裂を生じ互に我が夫に焚きつけて別居を謀りければ七之助兄弟に於
 てはなかく之を信せず果ては兄弟ながら其の妻を離別するに至りしなり彼の悪夫婦が
 毒舌は恐しや仔細なかりし女房を離別さす迄に至りしなれど斯くても兄弟の
 間は割れず近隣の悪夫婦は兎角飽足らぬ思ひなし兄の七之助に向ひて弟の十次
 郎が容易ならぬ害心を夾む由を詞巧みに説き又た弟の十次郎に向ひては兄の七
 之助が人知れず御身を除かんと謀ありと等しく詞巧みに説き聞えけるが兄弟
 ともさらさら之を信せず結局介意する事なくして兄は故と弟に油断を示せば弟
 も亦た兄に儘にせられよと言はぬ許りになしたりけり左れど互に固より隔心な
 かりければ悪夫婦の反間遂に行はれず折から人の悪夫婦が日頃の所爲を憎むより其
 欠點を評し出し後には七之助兄弟夫婦の間をも割んとしたる事をも知れ左様の悪
 人は所拂申付べしとて上より沙汰を蒙るに至りしと云ふ兄弟が相結ぶの力は他
 人の動すこと能はざる夫れ此の如し

○親戚に於ける心得

親兄弟に次で最も頼母しき者と親戚に
 なるの人々なり左れば此人々に對ひて
 は長幼の別ちなく相往來して常に能く
 親しむべきなり親戚には父の方に属す
 ると母の方に属するを最も重くして
 其他は叔伯父母の方に属する親戚など
 亦た皆な親むべきなり若し遠方に在る
 者寧らば四季折々に必らず書簡を發し
 安否を問ふことを怠るべからず實に親
 同胞に次で力になるものは親戚に在り
 と心得ねばならじされば此理を推して
 若し吾より先きに親戚の者困難に懼る
 事あらば必らず我が財を分ちて之を救
 ふべし尤も我が力の及ばざるものは致

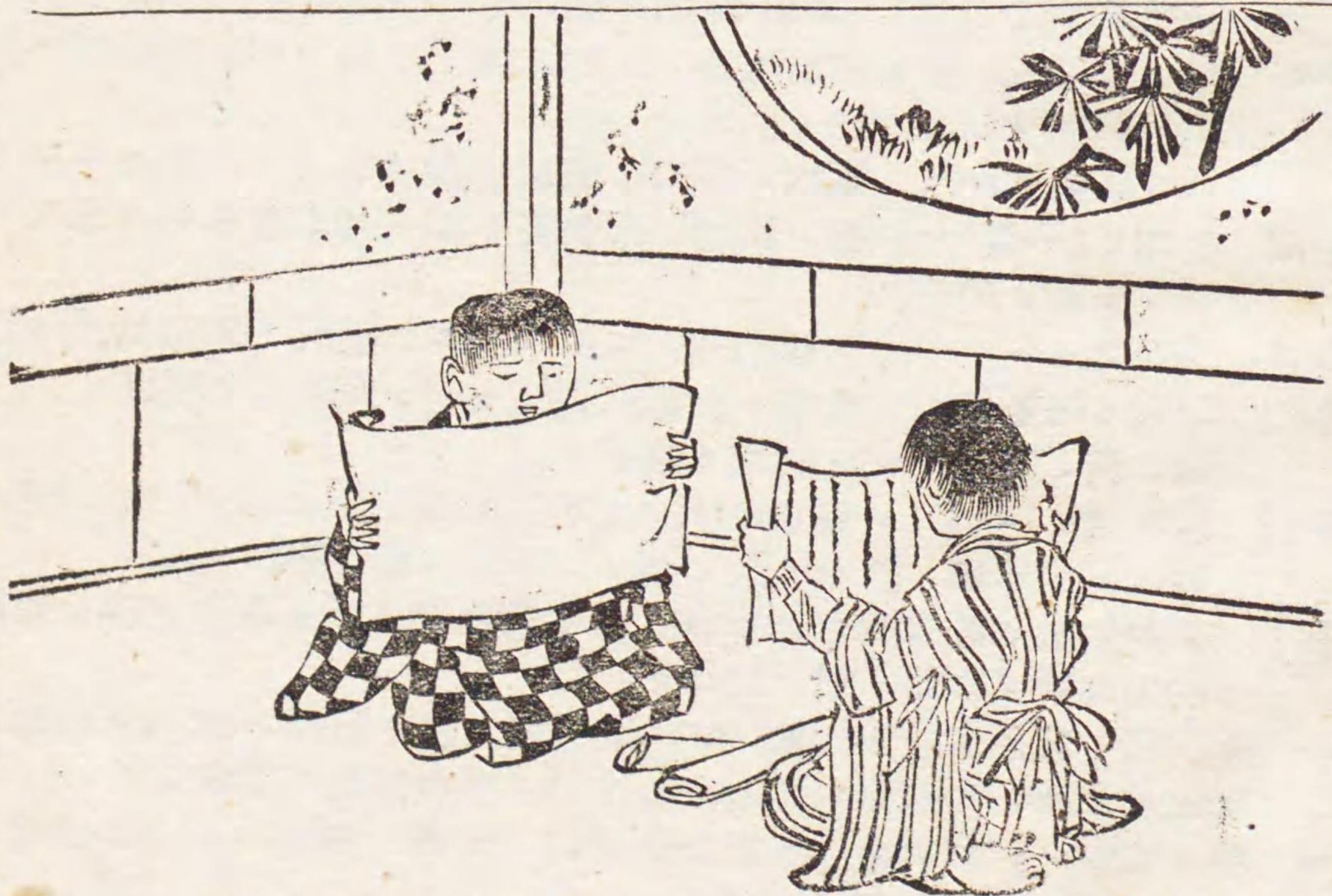


方なしと雖も凡そ事ある時の要心に日頃より儉約を主とし聊かなりとも餘財を蓄ふることを心懸け置くべきなり而して以て一家親類の難を救ふ何の難事か之のあらん何しても親戚は大事なり之と交際する必らず厚からざるべからずとす

○朋友に對するの心得

こゝに朋友とは専ら友達をさして云ふに在り抑も友達はと大事なるものはなし友達に之善き友あり惡き友あり善き友を友とすれば吾を益すること大いなりと雖も惡き友を友とすれば吾に損あること幾許か知るべからず左れば友達は能く擇ばざるべからずと雖も其の擇ぶは善友と惡友とを區別するに在るのみ富貴と貧賤とを擇ぶに非ざるなり假令ひ富貴なりと雖も善友とするに足らざるものあり貧賤なりと雖も決して惡友を以てすべからざるものあり之を要するに友達の善惡は其の賢愚を取捨するに在り賢者は厚く交るべし愚者は決して交るべからず而して既に親しく交はる友に對しては吾が心を打ち明け隔てなきを示しつゝ信實を盡して交はるべし斯の如くにして若し友達に過ちあるときはは叮嚀に注告すべし又た吾に過ちありて友達より注告を受けたるときは深く其厚意を謝し改むべきものは速かに改めざるべからず

尤も又た友達に交はるには相當の敬禮を行はざるべからず親み交はるに従つて敬禮を畧するが如は宜しからず何となれば是れ却て和親を絶つの恐れわれはなり故に隔心なく交はるは可し然れども妄りに押れしく親むは宜しからず友達訪ひ來ればよろしく之を出迎ふべし而して一禮を爲すことを忘るべからず禮して後ち友達の席に着かしむ之を上に据ゑ吾は必らず下に居ること勿論なり應對の時も言葉は力めて叮嚀に遣ふべし尤も前後を考へ合せて客たる友達の感情を損ねざるやう口利くべし二人以上の友達に接するとき其の何れにも偏よらず公平に話をなすべし言葉



は成るべく遠慮勝ちに遣ふべし遠慮なき言葉は人をして厭はしむるのみならず
 是よりして思はずも和親を破るの嫌あるを免かれざればなり
 また吾より友達の家に行くときは徐かに案内を乞ひて友達の在否を問ひ在宅な
 りと云へば少しく面會したき由を告げ通られよと云ふを待ちて上にあがるるとき
 吾が履物を邪魔にならぬやう傍らの方へ揃へて脱ぎ足音しづかに坐敷に通る友
 達の両親に逢はゞ慇懃に挨拶し夫より友達に逢ふて亦た叮嚀に挨拶すべし決し
 て我雜がましき舉動を爲すべからず扱て談話に移りては他人の長短を言ふべか
 らず政事に渉る話を爲すべからず樂しき事面白き事は少々するも可なれども多
 くは學問研究に係る談話を爲すに若かざるなり但し長談は宜しからず成る丈け
 早く歸ることを心懸くべし

○行狀の心得

是までは應對上の心得方を述べたるが今少しく自身に係る事柄を叙すべし自身
 は成るべく温和なる顔つきして身体を振り肩を威からすことある勿れ或は腕を
 まくり大股に歩くなご最も宜しからざるなり聲は成るべく高からず低からず中
 庸を失はぬやう發すべし途にて悪少年に喧嘩を仕掛けらるゝことあるとも之を

避けて相手になるべからず假令以頭を
 一ツ打たれるゝとも敵手が悪者と思はゞ
 耻ぢを忍びて以て之と逆らうこと勿れ
 昔し漢の高祖の臣に韓信と云へる豪傑
 がありけり此人極めて軍謀に長じ百萬
 の敵と雖も戦へば必らず勝ち攻れば必
 らず取ると云ふ名將なりけれども其初
 め志を得ざるとき淮陰と云ふ所を通り
 掛りしに數多の破落戸が居合せて韓信
 を見るより異口同音に悪口したり韓信
 は腰に劍を帯びたるに謂れなき奴原に
 冷かされて大耻をかきたれども怒らず
 其儘にして通り過んとするを尙はやら
 じと數多の破落戸が之を遮ぎり止め汝
 劍を腰に帯びながら吾輩を如何ともす



○幼年教育生徒の心得

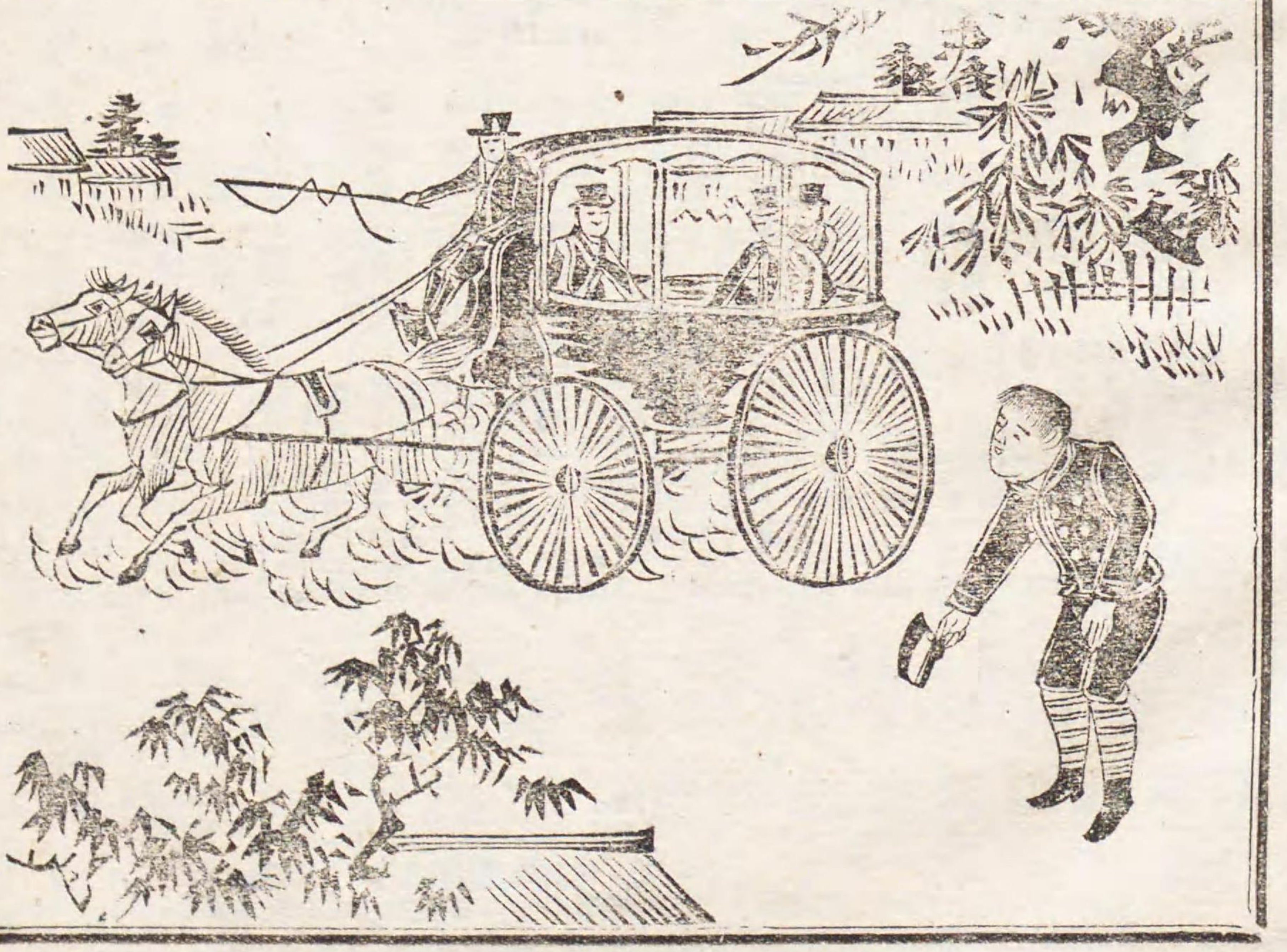
ること能はざれば吾等の窟を一人くくりに取り扱けべし然らざれば飽まで通すまじと云ひけるに堪忍づよき韓信も一時は勃としたりける去れど相手が破落戸なるに人数も多ければ怒じいなる事仕出かして大望ある身が出世の妨げとならんには却々以て後悔臍を噛むとも及ばじと流石は大量の韓信なれば忽地に考へ出で、彼等が云ふまゝに一人くくの跨を潜り抜けたり後に漢の高祖に仕へて齊王にぞ上りける左れば望みある身と耻ぢを忍ぶこと韓信の如く爲すことよけれ

○禮法の心得

人にして禮なきは禽獸に近しと云ふ常言あり如何にも禮儀は大切のものにして禮なき人との世の中に容れられず必らず社會より擯斥せらるゝを免かれざるなり生徒諸君はいづれも禮ある人となるべし尤も禮儀は過るに宜しからず輕きに宜しからず貴賤貧富長幼に依りおのゝ其の禮を殊にし宜しきに從はざるべからず禮には立禮と坐禮とあり立禮は重に途中に於て人に逢ひしとき用ゐるものなれども近來は官衙學校其他公けの式場にて之を用ゐるに至りしなり之を要するに立禮は輕便なる禮法の主要なりとす坐禮はすべて我邦古來より行はれ來る所の柔順なる式なり

扱又た立禮には敬禮と最敬禮の二様あり而して最敬禮は帽を脱ぎて之を左の腋に挟み腰を屈めつる右手を膝に當て、拜すべし若し帽を被らざる時は只腰を屈め兩手を腰にあて、拜すべし此最敬禮を行ふは我が叡聖文武なる天皇陛下を初め奉り皇室の御方に對し奉つりて行ふのみ其他尊長に施すの立禮は腰を屈め兩手を膝頭に下げ拜すべし同輩に向ひては手を下げることを膝の上に止まりてよし

若し又た途に於て貴人等すべて我が尊敬すべき人々に出逢ふときは之を其の右の方に避けつゝ暫時佇立し兩手を膝頭まで下げ拜すること前に全じ又た同



○幼年教育生徒の心得

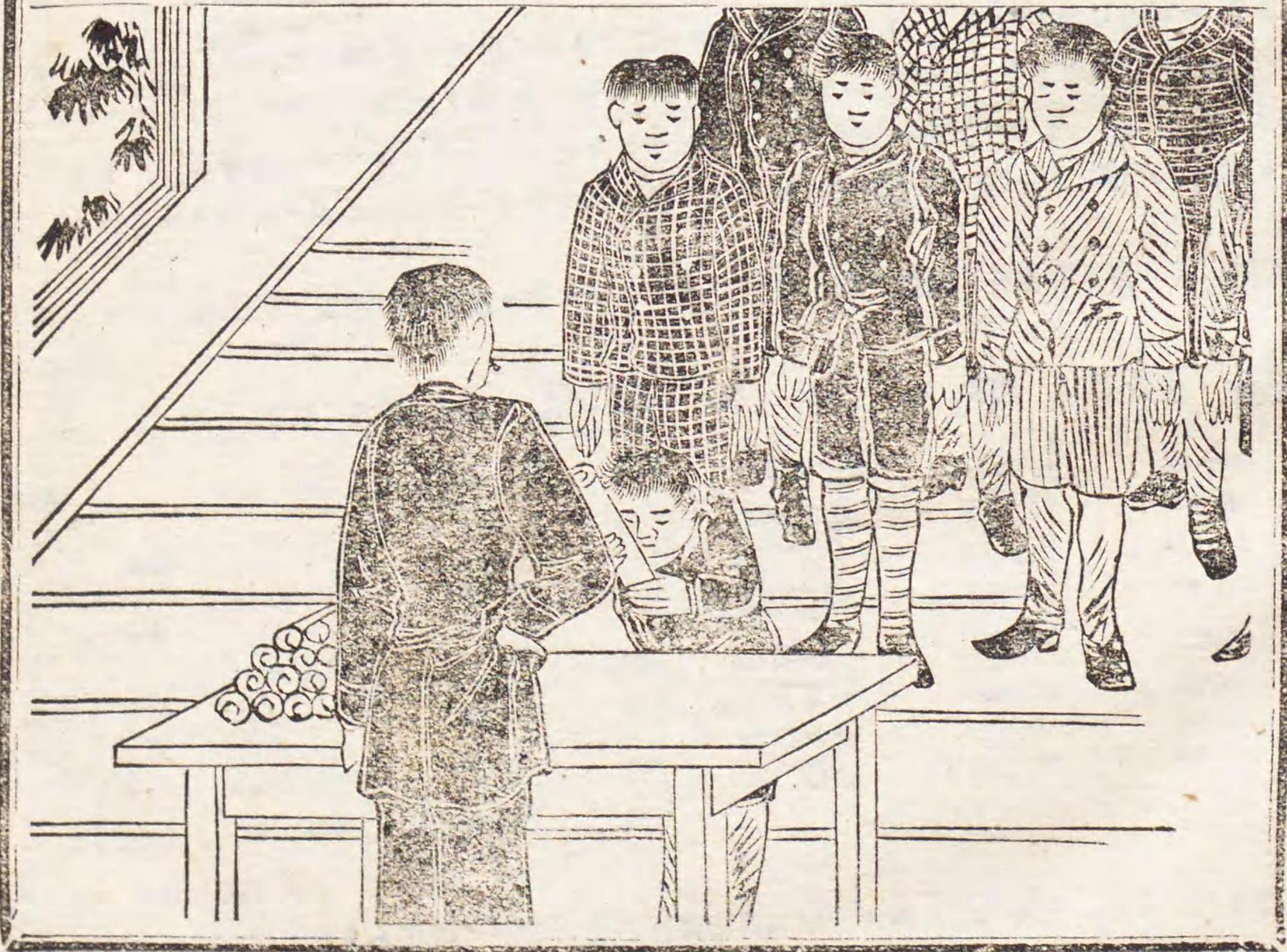
輩に出逢ふときは之を其の左の方に避け禮すること亦た前に全しとす
 學校又は其他に在りて椅子に倚れるとき尊長の人來る事あらば直ちに其椅子を
 離れ傍らに立ちて敬禮すべし來る人若し同輩なるときは椅子を立ちて其まゝ禮
 を施して可なり
 坐禮を行ふは兩手を揃へて下につき頭を其上に下げて禮すべし而して尊長の人
 に對し之を施すときは頭を下に置くこと少しく長くす同輩に對しては頭を下げ
 るや否や間もなく上げてよし凡そ禮は吾より先んずると後るゝとわれども惣て
 相對するを善しとするが故に客たる人坐すれば吾も亦た坐し立てば亦た立ちて
 禮すべきなり併しながら坐するにモせよ立つにモせよ禮を施す場合は最も慎重
 して周章することなく狼狽すること勿るべし
 爰に又た諸君が最も能く注意せざるべからざるものあり學校にて卒業證書又
 賞品を受くるときは初め卓より三尺許りを隔てたる所にまで進み兩足を揃へて
 一禮し夫より近く進みて右手に左手を差添へ而して授けらるゝものを受く受け
 たる後は其まゝ二足はど跡ささり證書なれば靜かに之を披き見又た疊みて押戴
 き一禮を施して而して退くべし

禮儀の心得は大抵右にて尽きたらんと
 思ふ其他は茲に掲ぐる所を斟酌して行
 へば蓋し大過なかるべしと雖も凡そ禮
 義は正しさを旨とするが故に兎角嚴格
 に失するの嫌あり左れば正禮を施す中
 にも何となく和らげる風容を示すべし
 只いかめしきみに過ぎて之其の禮の
 爲めに圓滑なる容儀を崩すに至ればな
 り之を要するに禮は柔剛その宜しさを
 得るにありとす

○前途の心得

小兒の時は其心の定まらざるものにて
 譬へば柔かき捏ねたる埴土の如きもの
 なり故に其模様に由りて如何なる形体
 にも爲り易し昔時支那にて墨翟といふ

○幼年教育生徒の心得

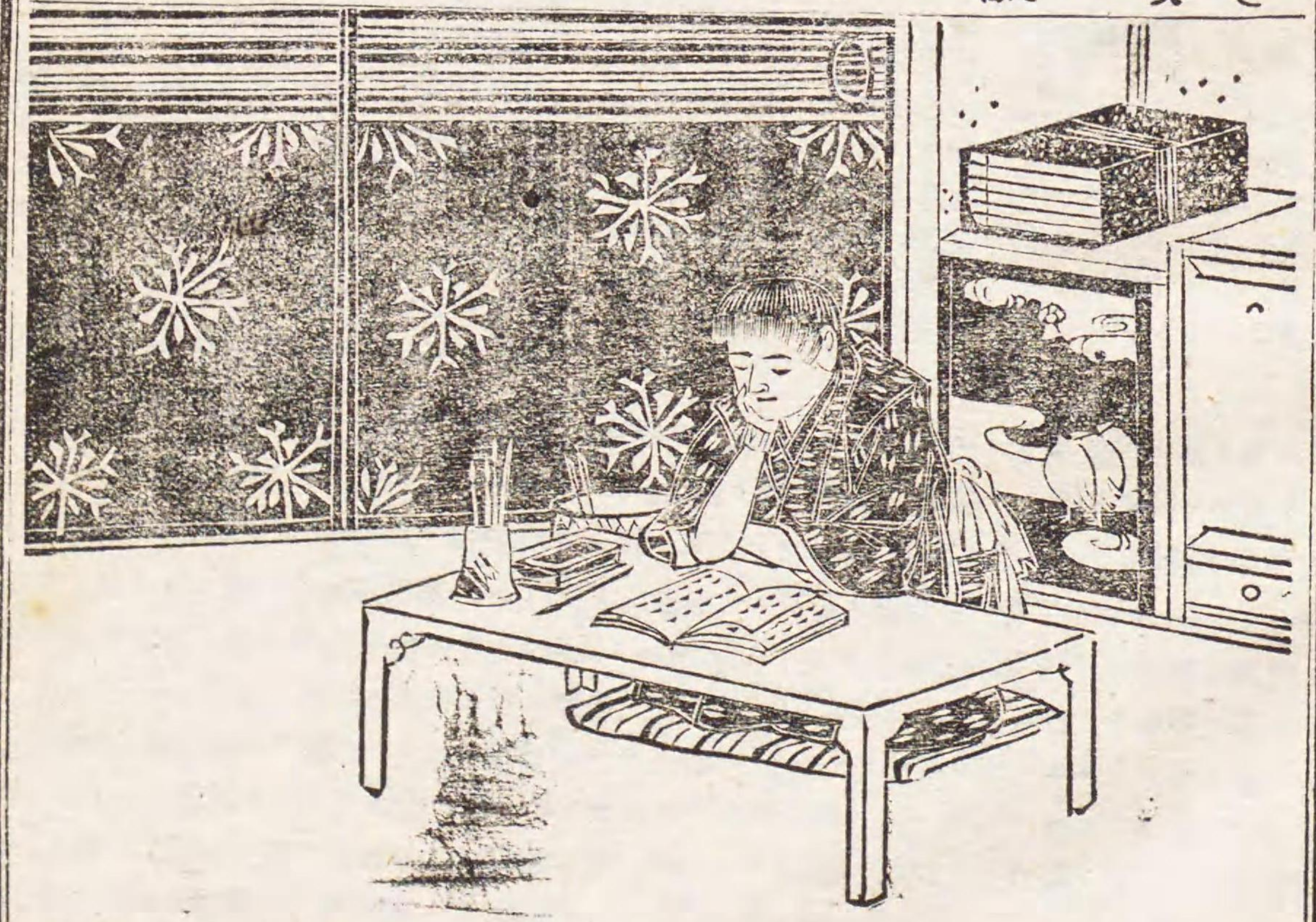


人純き糸を見て泣きしといふも此故にて墨翟と純き糸を小童の心の純にて駁り
 氣なきに譬へ此糸今は白けれと黒にも茶にも染るべし其交る所に由りて斯く種
 々に染ること故交る所を畏るといひ此故にて泣きたるなり今余が柔かき土に譬
 ふるも其形体の悪しき形体にならむとて之を畏るゝなり諸子よ文字を書き書籍
 を讀み算術を學び畫を抽き種々の事物の故由を識るは甚だ良き事なり良き事な
 るが故に教育とて政府よりも御世話をやかれ父母も其身の爲よかれとて斯くは
 學ばせらるゝなり然れど此文字を書き書籍を讀み算を爲し畫を描き種々事物を
 知るは此上なき面白き事にて此上も無き榮譽と心得身は農人の子にて農業を爲
 すことを嫌ひ身は工人の子にて工を爲すを厭ひ身は商人の子にて商業を爲すを
 屑からず思ひ唯一概に袴を着け絹の羽織を着て給料を取ること善しとするは
 宜しからず斯く袴を穿きて月給を取る人のみに爲らば商業を爲す者も工業を爲
 す者も農業を爲す者も是等の人は皆無きに至るべし今日は實業とて農工商の業
 を屑しとする傾きのある世となりしやうなれども明治十年の頃までは人々學問
 して官吏と爲らんとし身を誤りたる者多し少々の學問なればとて官吏の數にも
 定りあれば皆々官吏と爲ること能はず其他民間の業にても給料を出す者は給料

を取る者よりも寡ければ皆々給料取と
 爲ること能はず然れば學問を賣りて其
 身の生活を圖るは必しも可とは謂ふべ
 からず諸子は年齢幼稚にして休日を除
 くの外日々六七時間は學問所に在りて
 染まり又學問所といふ模型に入りて在
 る事ゆゑ餘りに染り過ぎず又其模型に
 形造られ固まりて化せざるやうに爲ら
 めを可とす是れ誠に其身の前途の心得
 なり然れど又拔群特達の學者と爲りて
 多き給料を取り又は有力の著述家と爲
 る者は此限りにあらず此には唯尋常の
 人の上にて心得を述るなり諸子よ反覆
 熟考せよ

生徒の心得畢

○幼年教育生徒の心得



明治二十七年六月二十日印刷
明治二十七年六月十四日發行

定價金四錢

版權所有

著者 橫山 順

發行者 濱本 伊三郎

印刷者 前野 茂久次

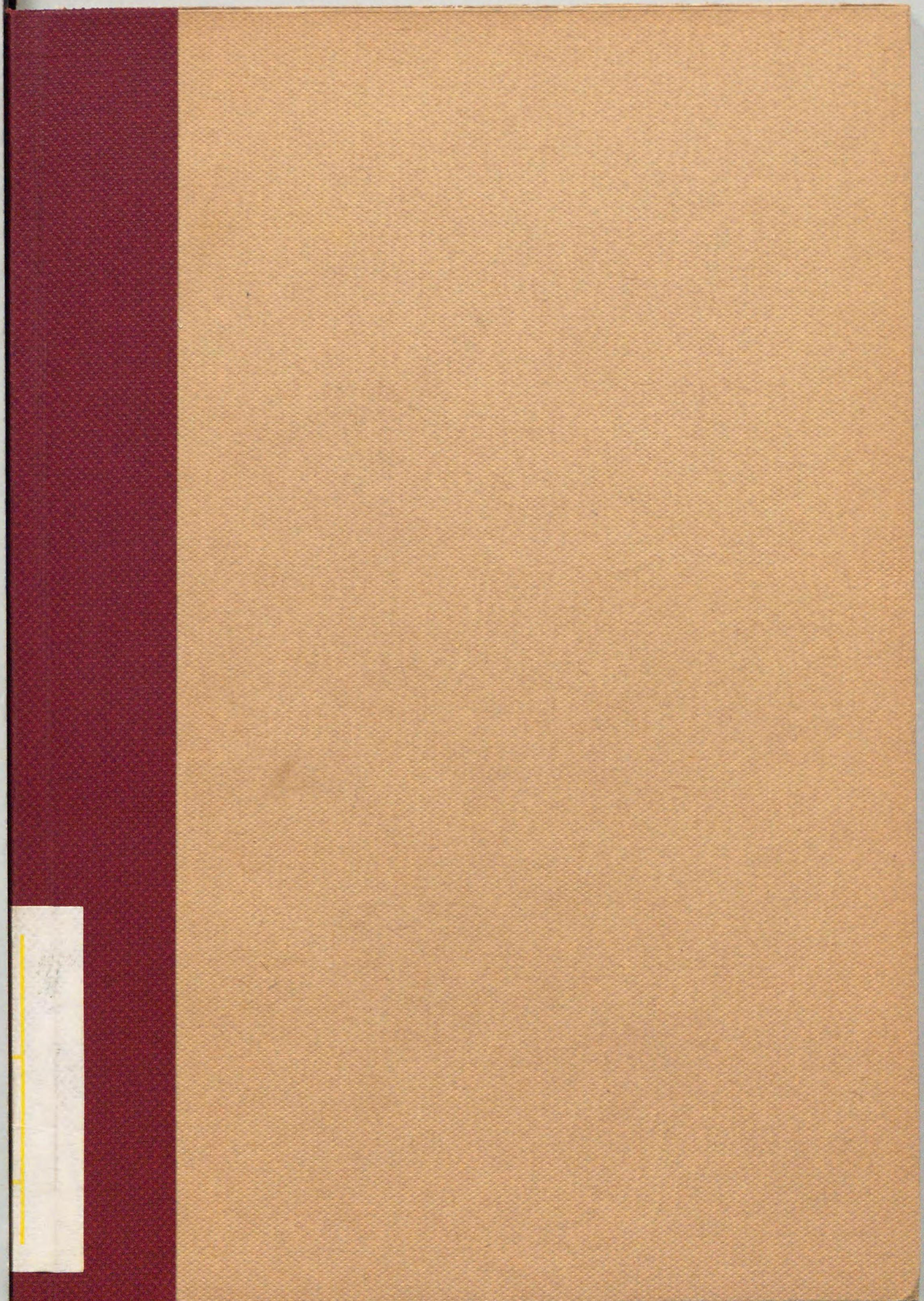
專賣者 明昇 堂

大阪市東區北久寶寺町四丁目卅五番屋敷

大阪市東區和泉町二丁目八番屋敷
前野活版所

大阪市心齋橋筋北久寶寺町北へ入





127
127
127